

第 72 回
関西社会学会大会
プログラム

第 1 日 2021 年 6 月 5 日 (土)

第 2 日 2021 年 6 月 6 日 (日)

開催校

京都産業大学
〈オンライン開催〉

オンライン大会開催のガイドライン (5月6日)

(1) 概要

- 本大会は、2021年6月5日(土曜日)～6月6日(日曜日)にオンライン開催します。大会運営は研究活動委員会と開催校の大会実行委員会が協力して取り組みます。開催校は京都産業大学です。大会実行委員長の藤野敦子先生をはじめ、現代社会学部の皆様にご協力いただきます。
- 大会当日は、京都産業大学のキャンパス(京都市北区)と「町家 学びテラス・西陣」(京都市上京区)に実行委員会の本部・拠点を置く予定です。
- 現在、オンライン上に大会特設ページを構築中です。
- 本大会に参加できるのは大会参加費を納入した会員および非会員です。
- 本大会はウェブ会議システム Zoom を活用して開催します。
- 参加登録された方は、オンライン開催中の画面の録画・録音・スクリーンショット撮影をおこなわないことを承諾したものとみなします。
- 各部会はオンライン (Zoom 会議) でおこないます。一般研究報告 (I・II)、「自著を語る～MY FIRST BOOK～」の報告者は、スライドやレジュメなどの資料を画面共有し、発表します。その後、参加者とチャットや音声で質疑応答をおこないます。
- ログイン情報や Zoom による部会のアクセス情報を他の方に伝えることは、拡散による不正参加や「あらし」などが起きることを防ぐために、決してなさないでください。
- オンライン開催にあたり、通信環境や通信機器等に不具合等が生じてても十分なサポートができない可能性があります。ご容赦ください。オンライン発表に際して万トラブル等が生じた場合も、関西社会学会はその責任を負いません。
- 報告者・司会者向けにマニュアルを作成し、別途ご連絡します。
- このガイドラインは 2021 年 5 月 6 日段階のもので、状況等により一部内容が変更されることがあります。変更の場合は学会ホームページおよびメールで周知します。

(2) 参加者 (聴講者) のガイドライン

- 第 72 回大会では、すべての参加者が事前に参加登録と参加費の支払いをする必要があります。
- 大会参加登録は下記の大会参加申込ページからおこなってください。
<https://sv1.award-con.com/2021kansya/>
- 大会参加費は 2000 円 (会員・非会員共通) です。支払はクレジットカード/銀行振込を選ぶことができます。5月31日(月曜日)まではどちらの方法も選択できます。6月1日(火曜日)以降はクレジットカード支払いのみとなります。
- 銀行振込の場合は、事務局が入金を確認した後に正式登録がなされるため、手続き完了まで少し時間がかかります。クレジットカード支払いの場合は、オンライン上の手続きのみで登録が完了します。
- 銀行振込の場合は 6月3日(木曜日)までに入金してください。参加者のクレジットカードでの支払いは大会当日まで可能ですが、報告者は大会前日までに支払いを済ませてください。
- 銀行振込の口座：ゆうちょ銀行
【他行からゆうちょ銀行に振り込む場合】ゆうちょ銀行 四〇八 (読み：ヨンゼロハチ) 支店
支店コード：408 普通預金 口座番号：8012280 口座名義：カンサイシャカイガツカイ
【ゆうちょ銀行から振り込む場合】四〇八 (読み：ヨンゼロハチ) 店
振込用の記号-番号：14040-80122801 普通預金 口座名義：カンサイシャカイガツカイ

- 参加申込方法と参加ガイドラインの詳細は、学会ホームページおよび会員一斉メールでアナウンスします。
- 領収書は大会特設サイトから PDF ファイルでダウンロードできます。大会特設ページは当学会がブランドコンセプト社に委託し構築します。クレジットカード支払いの場合、大会参加費はいったんブランドコンセプト社に集約されますが、集計後、当学会に払い戻されます。クレジットカード支払の場合、領収書にブランドコンセプト社の記載が入りますが、大会参加費の支払い先は当学会です。
- 利用する端末に事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。Zoom のアカウント作成は不要です。

【参考】 Zoom 公式サイト <https://zoom.us/>

ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>

- 各部会、シンポジウム、総会は、開始時刻の 10 分前から参加者の Zoom 会議室への「入室」を開始します。
- Zoom による部会に参加される場合、マイクは必ず「ミュート」にしてください。また、名前はフルネーム（所属先）で表記ください。
「名前の変更」をする方法
 - ①画面下のメニューバーの「参加者」をクリック
 - ②自分の名前上にカーソルを動かして「詳細」をクリック
 - ③「名前の変更」を選択
 - ④「氏名（所属大学）」などの表記に変更
- Zoom 部会の質疑応答は、手を挙げる機能、チャット、音声でおこないます。具体的方法については司会者の指示に従ってください。

（3）Zoom による報告者のガイドライン

- 大会当日は、できるかぎり静かでネットワークが安定している環境でご参加ください。当日使用しないアプリは終了しておくことを推奨します。
- 部会には司会者、管理・モニター担当者、運営サポート（学生アルバイト）が配置されます。司会者は部会の進行を担当します。管理・モニター担当は、Zoom を管理しつつ部会を見守り、トラブルがあったときに対応します。運営サポートは部会運営が円滑に進むようにサポートします。
- 報告者（発表者）は Zoom の「画面共有」機能を使って資料を提示し、報告をおこないます。報告時間は 25 分、質疑応答は 5 分です。
- 報告者が当日配布したい資料がある場合は、5 月 31 日（月曜日）までに資料を研究活動委員会に送付してください。期日以降に作成された資料をオンラインストレージに各自でアップロードすることも可能です。また、当日の部会中に Zoom のチャット機能を使って資料を共有することも可能です。資料に関するマニュアルは別途お知らせします。
- 部会開始時刻の 30 分前から、司会者・報告者・管理・モニター担当者・運営サポートは事前打ち合わせをおこないます。打ち合わせは部会開始の 10 分前までに終了します。
- 大会当日は、万一の場合に連絡が取れるように、携帯電話をお手元にご用意いただくようお願いいたします。緊急時の連絡方法は後日お知らせします。

(4) オンライン発表における著作権について

- オンラインの発表における報告資料の著作権の扱いには十分ご注意ください。以下のサイトに関連情報がありますので、ご参照ください。

「オンライン授業・オンライン学会における著作物の利用について」（澁川幸加）

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/04/18/015830>

「日本文化人類学会 オンライン学会発表におけるコンテンツガイドライン」

<https://jasca54.jimdofree.com/zoom%E5%88%A9%E7%94%A8%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E7%99%BA%E8%A1%A8%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%84%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3/>

(5) 報告 要旨集について

- 報告要旨集は、大会特設ページから pdf データをダウンロードしてご覧ください。
- 今年度は、紙媒体の要旨集の配布はおこないませんが、冊子を希望される方は 5 月 25 日（火曜日）までに研究活動委員会にご連絡いただければ、有料（1 冊 1000 円：送料込）にて作成・郵送します。

* 報告要旨集（有料冊子）の郵送を希望される方

送付先・名前を明記のうえ、研究活動委員会までメールにてお申し込みください。

メールアドレス： 2021kansya 〈アットマーク〉 gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

(6) 緊急時の連絡について

- 大会の直前に病気や事故等やむを得ない事情で、発表をキャンセルする場合は、以下の研究活動委員会宛のアドレスにメールするか、あるいは、報告者・司会者向けに別途お知らせする緊急連絡用電話番号に連絡してください。 メールアドレス： 2021kansya 〈アットマーク〉 gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

■謝辞

「オンライン大会開催のガイドライン」の作成にさいして、すでに開催された学会大会のウェブサイトや資料などを参考にさせていただきました。記して感謝いたします。

「学会全国大会のオンラインでの試行開催の運用メモ」（日本教育工学会 2020 年度春季大会実行委員会（信州大学） <https://cril-shinshu-u.info/archives/1473>

「オンライン学会向け Zoom マニュアルの公開」（澁川幸加）

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/03/28/022605>

「日本文化人類学会第 54 回研究大会オンライン開催ポータル」

<https://jasca54.jimdofree.com/>

「日本社会学理論学会第 15 回大会参加者マニュアル」

<http://sst-j.com/?p=636>

「第 93 回日本社会学大会 報告者向けマニュアル・一般参加者へのご案内」

<https://jss-sociology.org/other/20200930post-10889/>

第1日 6月5日(土)

特別企画 6月5日 土曜日午前 10:00~12:00

◆特別企画 10:00~12:00

テーマ「学術誌のエートスとシステム——ソシオロジ 200号刊行を記念して」

司会：岡崎宏樹（神戸学院大学）

- | | |
|----------------------------------------|-----------------|
| 1. 『ソシオロジ』のエートスとシステム | 吉田純（京都大学） |
| 2. 『ソシオロギス』のエートスとシステム | 馬渡玲欧（日本大学・東海大学） |
| 3. 『The Sociological Review』のエートスとシステム | 高橋薫（工学院大学） |
| コメント1. 永井良和（関西大学） | |
| コメント2. 松谷実のり（追手門学院大学） | |

研究報告 I 6月5日 土曜日午後 13:00~15:30

1. 家族・ジェンダー 司会：村上あかね（桃山学院大学）

- | | | |
|---------------------------------------------------------------------|------|--------|
| 1. コロナ禍における家事とメンタルヘルスの関係 | 濱貴子 | 富山県立大学 |
| 2. 夫の「単身赴任」の経験が夫婦関係に与える影響
—傾向スコアを用いた比較分析から— | 藤野敦子 | 京都産業大学 |
| 3. 誰が「時間貧困」に陥るのか？
—未婚者の余暇時間を中心に— | 平井太規 | 立教大学 |
| 4. 中国における「二人っ子政策」以後のマス／ソーシャルメディアによる「家族像」の再編成
—「生—政治」を乗り越える可能性から— | 宋円夢 | 京都大学 |

2. 政治 司会：山本崇記（静岡大学）

- | | | |
|------------------------------------------------------------------------------|------|--------|
| 1. 国防と防災の狭間
—自衛隊退職者団体の民間防衛関連事業にみるジレンマ— | 津田壮章 | 京都大学 |
| 2. 新制度論と「アイディアの政治」
—動態論および政治過程における政治社会学的アプローチ— | 稲葉年計 | 東京都立大学 |
| 3. ユーモアで「覆い隠す」ことによるジェンダーバックラッシュ言説への対抗
—フランスにおける性的マイノリティへのバッシングに抗う社会運動を例に— | 村上彩佳 | 専修大学 |

3. 教育 司会：多喜弘文（法政大学）

- | | | |
|----------------------------------------------------------------|-------|------|
| 1. 移民的背景のある児童生徒の学校生活に関する実証的分析
—TIMSSを用いたいじめ経験の分析— | 中原慧 | 京都大学 |
| 2. 高校生の価値志向が教育達成に与える影響についての分析
—東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H）データを用いて— | 増井恵理子 | 滋賀大学 |
| 3. 教育期待と学力の階層差からみた教育格差に関する日中比較 | 言夢茹 | 京都大学 |
| 4. 日本の学校における「頭髪指導」についての一考察
—「人類学的行為選択モデル」に依拠して— | 小川晃生 | 神戸大学 |

4. 文化・知識

司会：羽瀨一代（弘前大学）

1. 再帰的な話法を用いた「純粋さ」維持戦略
—小劇場演劇の事例から— 柴田惇朗 立命館大学
2. いけばなの停滞にみる「伝統の創造」のもう一つのかたち
—いけばなのジェンダー戦略とその帰結— 坪井優子 関西学院大学
3. 芸術の流通に対する美術館体系の影響
—日本の美術展覧会に注目して— 王勁為 京都大学
4. 社会的上達から集合的上達へ
—太極拳推手交流会を題材として— 倉島哲 関西学院大学

5. 医療・コミュニケーション

司会：木下衆（慶應義塾大学）

1. インターネットを介した「生きづらさ」を抱えた人々のセルフヘルプ
—Twitterにおける「生きづらさ」の自己語りの事例から— 山内右京 京都大学
2. 終末期がん患者の語りの分析
—患者の記したブログの文章から— 歸山亜紀 群馬県立女子大学
3. HIV・エイズに関する報道の転換点の分析
—KH coder での新聞見出しの分析から— 〇景山千愛 京都府立医科大学
花井十伍 特定非営利活動法人「ネットワーク 医療と人権」
横田恵子 神戸女学院大学
大北全俊 東北大学
4. クラスタ対策とは何だったのか
—日本の COVID-19 対応にみる非合理的コミュニケーション— 田中重人 東北大学

◆自著を語る～MY FIRST BOOK～

司会：石原俊（明治学院大学）

1. 『ただ波に乗る Just Surf——サーフィンのエスノグラフィー』（晃洋書房 2020年）
水野英莉 流通科学大学
2. 『記憶の社会学とアルヴァックス』（晃洋書房 2020年）
金瑛 関西大学
3. 『誰かの理想を生きられはしない——とり残された者のためのトランスジェンダー史』
（青土社 2020年） 吉野靱 立命館大学
4. 『「発達障害」とされる外国人の子どもたち——フィリピンから来日したきょうだいをめぐり、
10人の大人たちの語り』（明石書店 2020年） 金春喜 京都大学大学院修士課程修了

◆総会 15:50～16:50

◆招待講演&トークセッション 17:10～19:10

テーマ「社会学と人類学の〈境界〉」

講演者 松村圭一郎（岡山大学）

対話者 松浦雄介（熊本大学）

司会 工藤保則（龍谷大学）

* 京都産業大学「町家学びテラス・西陣」（京都市上京区）からライブ配信（予定）

第2日 6月6日(日)

研究報告Ⅱ 6月6日 日曜日午前 9:30~12:00

6. 都市・文化 司会：二階堂裕子（ノートルダム清心女子大学）
1. 都市文化におけるバウンダリーの顕在化と運動の制度化
—NYCのオルタナティブ・スペース・ムーブメントの事例— 笹島秀晃 大阪市立大学
 2. 「哲学の道・芸術家村」における美はいかにして創造されたか
—国画創作協会を中心に— 園知子 京都大学
 3. 分断都市に潜在する公共性
—マニラにおける小型路線バスの事例から— 西尾善太 京都大学
7. 社会福祉・医療 司会：前田拓也（神戸学院大学）
1. 地域社会におけるひきこもり経験者の「支援」過程
—フレーム概念からの接近— 桑原啓 京都大学
 2. 語りにくさを伴わない性の語りは可能なのか
—医療従事者のインタビュー調査から— 前田絢子 京都大学
 3. 多様な脳と二つの脳
—アスペルガー症候群に関する言説における脳への言及— 渡辺翔平 大阪府立大学
 4. 知的障害者家族において父親はいかなるケアを担っているのか
—親が高齢期を迎えた家庭に着目して— 染谷莉奈子 中央大学
8. 地域・エスニシティ 司会：佐々木祐（神戸大学）
1. キリスト教系信徒団体が居住地の選択に与える影響
—大阪府近郊在住フィリピン人の事例から— 齊藤優 神戸大学
 2. 地域文化の文脈から捉える内モンゴル都市部におけるゲル風デザインの流行
李兆欣 神戸大学
 3. 多国籍化した日本企業におけるエスニックな包摂と分断
—中国とドイツの比較から— 松谷実のり 追手門学院大学
 4. 過疎地域における「朝鮮通信使」の意味と在日コリアンとの連携
—広島県呉市下蒲刈町を事例に— 魯ゼウオン 天理大学
9. 社会史・歴史社会学 司会：坂部晶子（名古屋大学）
1. マンモス団地と「バタヤ部落」
—羽仁進『彼女と彼』と1960年代の貧困表象をめぐる一考察— 小谷七生 神戸市外国語大学
 2. アジア的家族主義と近代国民国家の創出
—日本と中国を事例として— 劉恒宇 京都大学
 3. 旧軍関係者団体における歴史修正主義の台頭と戦後派世代の参加
—1980年代~2000年代の偕行社の動向を中心に— 角田燎 立命館大学
10. 社会心理・コミュニケーション 司会：岡本裕介（京都先端科学大学）
1. 米国太平洋岸のコミュニティの津波報道に係る新聞記事から見た住民の避難行動と防災意識の考察
—Crescent Cityを襲った3つの津波の報道から— 高田満彦 龍谷大学
 2. 監視カメラがもたらす「行為の意図せざる結果」とその戦略的な利用
蔵本紗知 南山大学

- | | | |
|-------------------------------------------|-----|--------|
| 3. 「空気」についての社会学的研究
—「空気」を観測可能なものにする試み— | 楊芳溟 | 関西学院大学 |
| 4. 「公論」の布置状況
—ハーバーマスの社会理論に依拠して— | 崔昌幸 | 京都大学 |

6月6日 日曜日午後 13:00~16:00

◆シンポジウム

13:00~16:00

テーマ「社会学を高校生にも——〈市民〉を育てる実践」

司会 伊地知紀子（大阪市立大学）
都村聞人（神戸学院大学）

- | | |
|----------------------------------------------------------|--------------------|
| 1. 日本社会学会による高校生向けウェブページ作成の試み
—社会学は将来世代にどうアピールできるのか— | 丹辺宣彦（名古屋大学） |
| 2. 「先生のような社会学者・教育者に会えたことを…」
—公民教育にとっての社会学と「生き方の問いかけ」— | 片田孫朝日（灘中学校・灘高等学校） |
| 3. 高校シティズンシップ教育と社会学 出会いと可能性
—「公共」や「市民社会」を生徒に— | 杉浦真理（立命館宇治中学校高等学校） |
| 4. 社会学的想像力をいかにしたら伝え得るのか
—私が新書を書き続ける理由 ^{わけ} — | 好井裕明（日本大学） |